



2008年4月18日
JASDAQ
証券コード：3048

2008年8月期
中間決算説明会資料

株式会社 **ビックカメラ**

1. 2008年8月期 中間決算概要
2. 2008年8月期 業績見通し
3. 成長戦略

ビックカメラ

1. 2008年8月期 中間決算概要

〔連結〕2008年8月期 中間決算ハイライト



中間期としては売上、利益共過去最高
 売上高2,981億円(前年比+12.7%)、営業利益82億円(同+4.0%)

(単位 百万円)

	2007年8月期中間		2008年8月期中間				
	実績	売上比	実績	売上比	前年同期比	計画値	計画比
売上高	264,678		298,195		+12.7%	289,000	+3.2%
売上総利益	63,221	23.9%	70,785	23.7%	+12.0%		
販売費及び一般管理費	55,272	20.9%	62,518	20.9%	+13.1%		
営業利益	7,949	3.0%	8,266	2.8%	+4.0%	8,000	+3.3%
経常利益	8,627	3.3%	8,864	3.0%	+2.7%	8,000	+10.8%
中間純利益	3,284	1.2%	7,145	2.4%	+117.5%	6,900	+3.6%

※売上総利益、販売費及び一般管理費の計画数値は発表しておりません。

売上高 2,981億円

ビックカメラの既存店が前年を上回り、新店も計画を上回る好スタートとなり計画通りに推移

営業利益 82億円

増収効果に加え、効率的な業務運営を実施した結果、計画通りに推移

中間純利益 71億円

ビックカメラで特別利益として匿名組合清算配当金を計上
(49.2億円)

〔連結〕品目別売上高

ビックカメラ

(単位 百万円)

	2007年8月期中間		2008年8月期中間		
	金額	構成比	金額	構成比	前年同期比
音響映像商品	63,126	23.9%	70,351	23.6%	+11.4%
家庭電化商品	32,235	12.2%	36,416	12.2%	+13.0%
情報通信機器商品	107,495	40.6%	121,773	40.8%	+13.3%
その他の商品	60,930	23.0%	68,224	22.9%	+12.0%
その他の事業	890	0.3%	1,430	0.5%	+60.6%
合計	264,678	100.0%	298,195	100.0%	+12.7%

〔単体〕2008年8月期 中間決算ハイライト



中間期としては売上、利益共過去最高
 売上高2,403億円(前年比+10.0%)・営業利益81億円(同+26.0%)

(単位 百万円)

	2007年8月期中間		2008年8月期中間				
	実績	売上比	実績	売上比	前年同期比	計画値	計画比
売上高	218,528		240,364		+10.0%	230,000	+4.5%
売上総利益	52,568	24.1%	57,880	24.1%	+10.1%		
販売費及び一般管理費	46,086	21.1%	49,708	20.7%	+7.9%		
営業利益	6,482	3.0%	8,171	3.4%	+26.0%	7,000	+16.7%
経常利益	7,508	3.4%	8,902	3.7%	+18.6%	7,200	+23.6%
中間純利益	2,993	1.4%	7,420	3.1%	+147.9%	6,500	+14.2%

※売上総利益、販売費及び一般管理費の計画数値は発表しておりません。

売上高 2,403億円

店舗： 堅調な既存店のほか、新店（JR京都駅店、岡山駅前店）も計画を上回るペースで順調に推移

商品： 薄型テレビ、デジタルカメラ、エアコン、携帯電話、TVゲーム等が堅調

営業利益 81億円

売上総利益： 粗利率が前年同期比ほぼ横ばいも
売上増加により増益

コスト： 経費の効率的運用を実施

〔単体〕品目別売上高

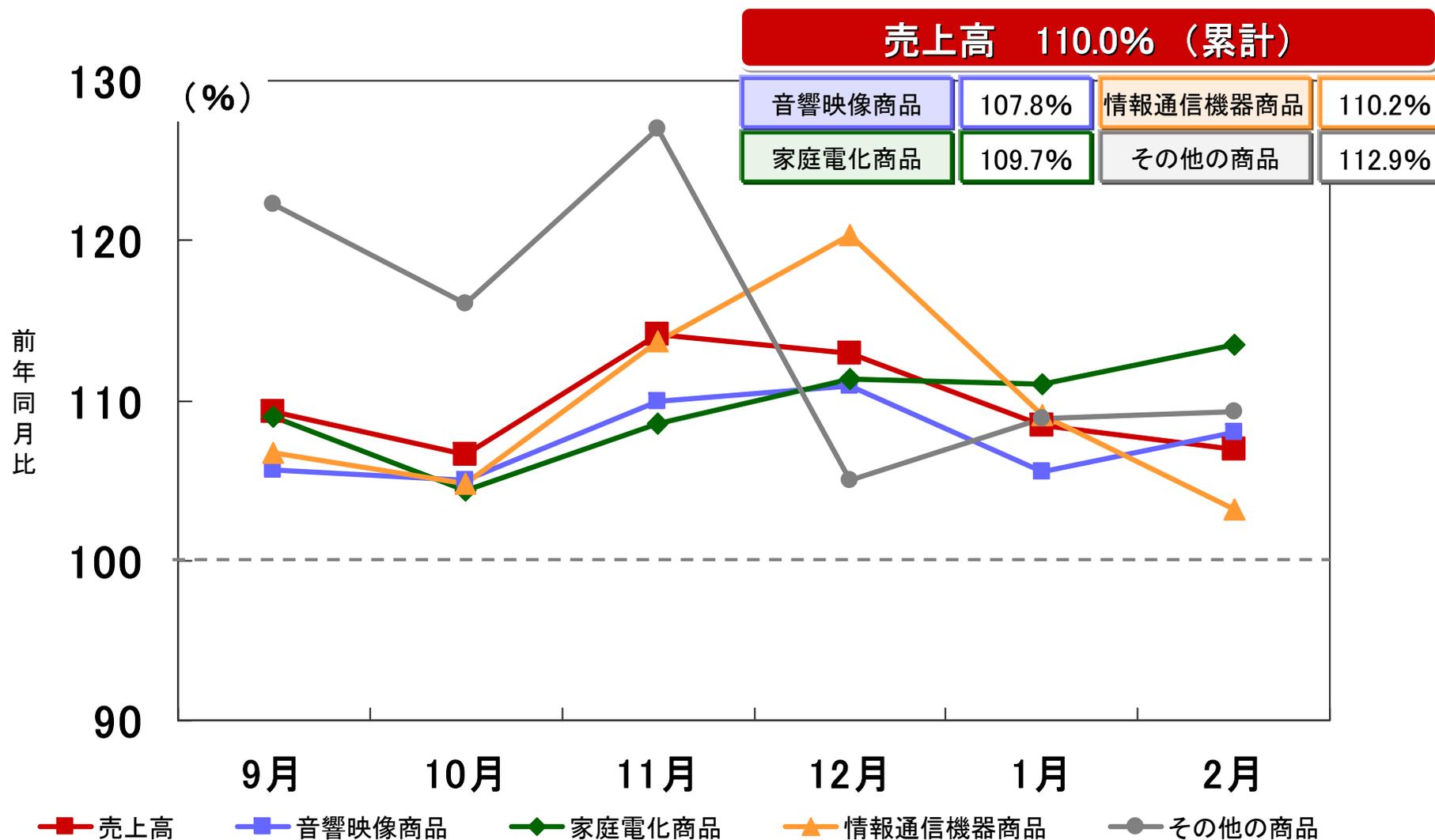


(単位 百万円)

	2007年8月期中間		2008年8月期中間		
	金額	構成比	金額	構成比	前年同期比
音響映像商品	59,401	27.2%	64,042	26.6%	+7.8%
家庭電化商品	32,236	14.8%	35,371	14.7%	+9.7%
情報通信機器商品	87,070	39.8%	95,973	39.9%	+10.2%
その他の商品	39,819	18.2%	44,976	18.8%	+12.9%
合計	218,528	100.0%	240,364	100.0%	+10.0%

〔単体〕品目別の月次売上高の推移

全店売上高：上期(2007年8月～2008年2月)



※実績は会計数値であり、毎月発表しておりますPOSデータを基にした「月次売上速報」の数値とは異なります。

〔単体〕主要商品の動向（POS実績）

	主要商品	前年 同期比	主要商品の状況
音響映像	テレビ	112%	同サイズ比で単価下落したものの、需要はより大型商品へシフトし、加えて販売台数も増加
	DVDレコーダー	107%	高単価のBD（ブルーレイディスク）レコーダーがラインナップ増加、比較的安価なモデルの登場もあり構成比が増加し、販売台数横ばいも売上増加
	ポータブルオーディオ	109%	i Pod新機種の寄与
家庭電化	エアコン	130%	自動掃除機能などの高機能化による単価上昇、使用環境の変化により年間を通しての需要が発生
	冷蔵庫	110%	400リットル超大容量タイプの売上比率が高まる
	洗濯機	103%	乾燥機一体型の比率が高まるものの、単価下落
情報通信機器	パソコン本体	106%	デスクトップタイプは前年を割りこむが、ノートタイプは順調に推移、特にサブノート・モバイルノートの需要が伸びる
	デジタルカメラ	119%	堅調なコンパクトタイプに加え、一眼レフタイプは旺盛な需要から構成比が高まり、デジタルカメラの単価が上昇
その他	TVゲーム	121%	ゲーム機本体は旺盛な需要が続き、それらに関連するソフト、アクセサリも順調

〔単体〕効率的な経費運用を実施

ポイント関連費用

- ポイント付与率を商品ごとにきめ細かく見直し
- 効率的なポイントアップキャンペーンの実施

販売促進費

- キャンペーンの効率的な実施

広告宣伝費

- テレビCM等の電波広告の継続的な見直し
 - ◆ ポイントカード利用データを使用しターゲット層の視聴が多い地域・番組・時間帯への集中的な費用投下

〔単体〕上期に寄与した新店舗

両店共に業績は順調



JR京都駅店

- ・2007年8月23日開店
- ・JR京都駅ホームと直結
- ・面積 約8,000m²

岡山駅前店

- ・2007年11月20日開店
- ・JR岡山駅と地下道で直結
- ・面積 約10,000m²



ビックカメラ

2. 2008年8月期 業績見通し

〔連結〕2008年8月期 業績見通し



期初計画を修正も前期比で売上・営業利益・当期純利益が2桁増の見通し
売上は初めて6,000億円台に乗る見込み

(単位 百万円)

	2007年8月期		2008年8月期(予想)					
	実績	売上比	期初計画	修正計画	売上比	前期比増減額	前期比	期初計画差異
売上高	542,294		589,000	610,000		+67,706	+12.5%	+21,000
営業利益	16,002	3.0%	18,500	17,700	2.9%	+1,698	+10.6%	△800
経常利益	17,448	3.2%	18,500	18,200	3.0%	+752	+4.3%	△300
当期純利益	8,146	1.5%	12,400	12,000	2.0%	+3,854	+47.3%	△400

〔単体〕2008年8月期 業績見通し



売上、利益共に期初計画を上方修正

(単位 百万円)

	2007年8月期		2008年8月期(予想)					
	実績	売上比	期初計画	修正計画	売上比	前期比増減額	前期比	期初計画差異
売上高	446,409		473,000	493,000		+46,591	+10.4%	+20,000
営業利益	13,290	3.0%	15,200	15,800	3.2%	+2,510	+18.9%	+600
経常利益	15,262	3.4%	15,600	16,600	3.4%	+1,338	+8.8%	+1,000
当期純利益	7,458	1.7%	10,900	11,300	2.3%	+3,842	+51.5%	+400

前期比 大幅増収・増益を予想

売上高6,100億円(前期比+677億円、+12.5%)

景気下振れリスクはあるものの、北京オリンピック及びビックカメラの新店効果を見込む

営業利益177億円(前期比+16億円、+10.6%)

戦略的経費増を見込むが引き続き効率的経費運用を行い、前期比2桁増を見込む

当期純利益120億円(前期比+38億円、+47.3%)

特別利益(上期:匿名組合清算配当金 49.2億円)の計上

下期はベスト広島店と新横浜店(移転)が寄与

ビックカメラ

両店共に順調にスタート

ベスト広島店



2008年3月6日開店

- ・ベスト電器広島本店に出店
- ・自走式駐車場を完備
- ・面積 約10,000m²(中四国地方最大規模)

新横浜店



2008年3月26日開店

- ・JR新横浜駅の新駅ビルに移転増床
- ・新駅ビルのキーテナントとして3F~9Fに出店
- ・面積 約7,000m²

ソフマップの2009年2月期の業績見通しについて

ビックカメラ

- ・秋葉原本館、秋葉原地区既存店の売上増
- ・ビックカメラへのインショップによる売上増
- ・顧客囲い込みのための経費増もこなし
増収・増益の計画



(単位 百万円)

ソフマップ 単体業績	2008年2月期		2009年2月期		
	上期実績	通期実績	上期予想	通期予想	前期比
売上高	46,184	99,486	54,000	108,000	+8.6%
営業利益	540	731	670	1,400	+91.5%

〔連結〕 設備投資の実績と計画

		2008年8月期 通期計画	
設備投資		40,500百万円	
内 容		上期実施済 <ul style="list-style-type: none"> ・新規出店 (岡山駅前店、ソフマップ秋葉原本館) ・池袋本店・本社社屋の取得 ・日本BS放送 新本社社屋 	下期実施予定 <ul style="list-style-type: none"> ・新規出店(ベスト広島店 3月) ・店舗の移転増床(新横浜店 3月) ・既存店舗の改装 ・ビックカメラドットコムリニューアル

		2008年8月期 通期計画	
減価償却費		2,050百万円	
内 容		<ul style="list-style-type: none"> ・店舗、設備の増加 ・池袋本店等取得 	

前期に続き今期も増配を予定

配当金

	06年8月期実績	07年8月期実績	08年8月期計画
通期	500円 (1,000円※)	750円 (1,500円※)	1,000円 +250円
配当性向	10.7%	13.9%	12.6%

※2007年9月1日に1:2の株式分割を実施 ※括弧内の金額は株式分割前の一株当たり配当金額です

株主優待制度の向上

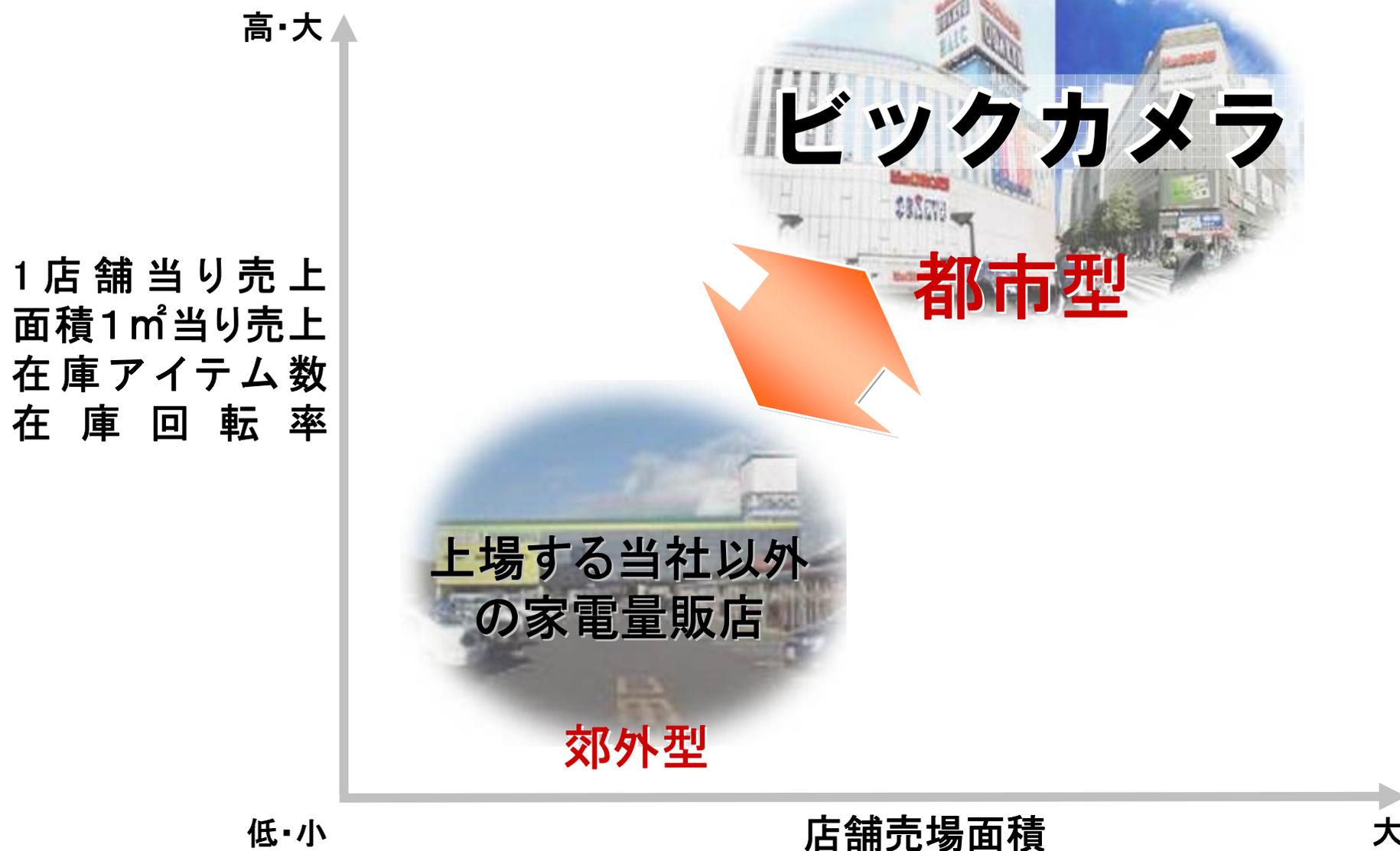
- ・株式分割後も優待条件の変わらない株主優待制度
- ・長期株主優待制度の導入

長期安定株主の確保

ビックカメラ

3.成長戦略

ビックカメラ＝都市型モデル



高効率の追求

I 集客力の強化

- ①「都市」「大型」「駅前」への継続的出店
- ②既存店の強化(エリア戦略)
- ③顧客囲い込み
- ④バーチャルチャネル(EC、TV)の強化

II 購入単価・購入点数のアップ

- ①品揃えの強化(専門性の追求)
- ②「購買意欲」の促進
- ③「顧客満足度」の向上
- ④「高粗利商品」の強化

III 販売員のレベルアップ

- ①人材の確保
- ②教育・研修の強化

ローコストオペレーションの徹底

I 物流の合理化

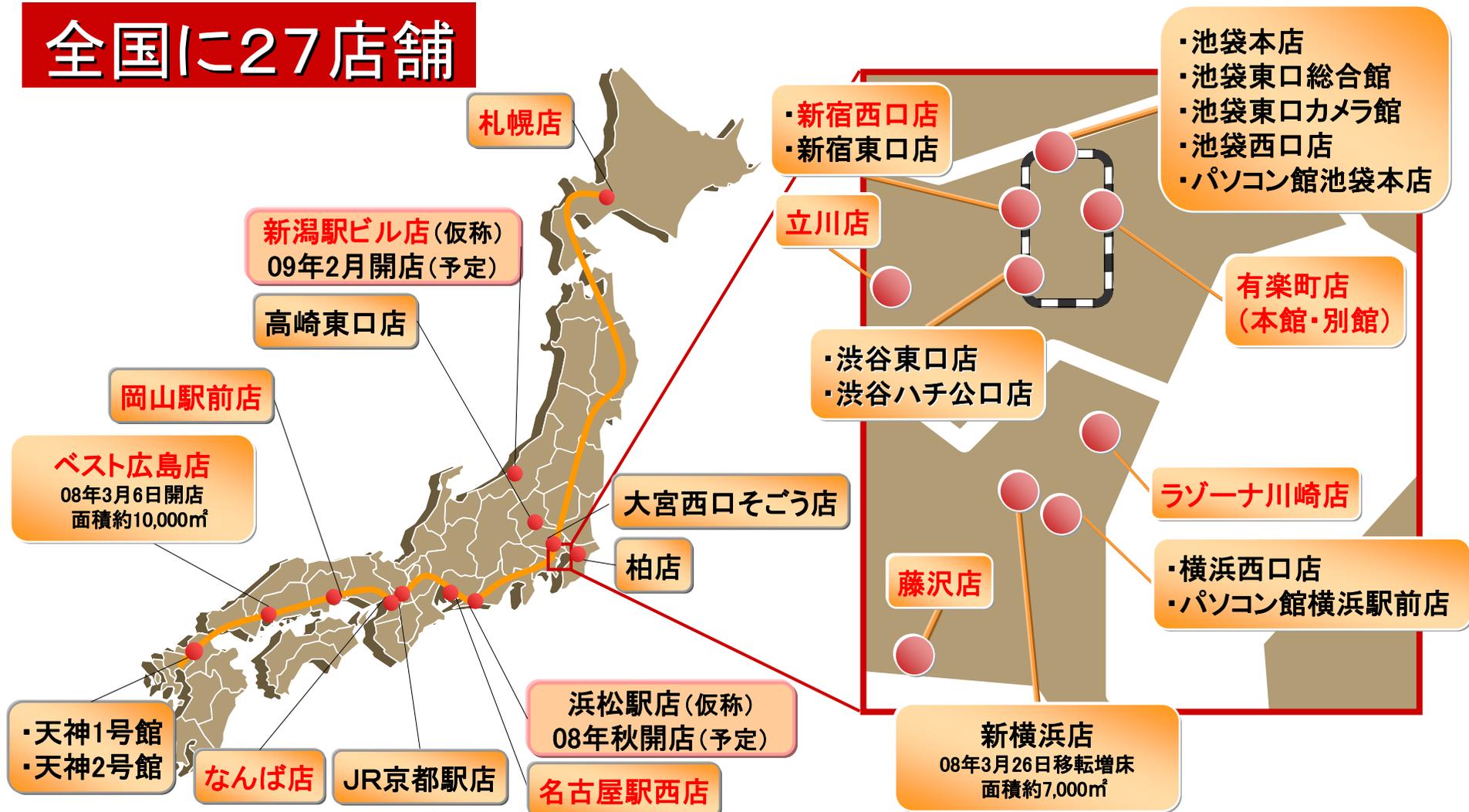
- ①東松山センターの本格稼動
- ②提携先のリソース活用

II 経費の効率的運用

「都市」x「駅前」x「大型」の店舗展開

年2店程度を出店

全国に27店舗



注: 赤文字の店舗は、面積10,000㎡以上

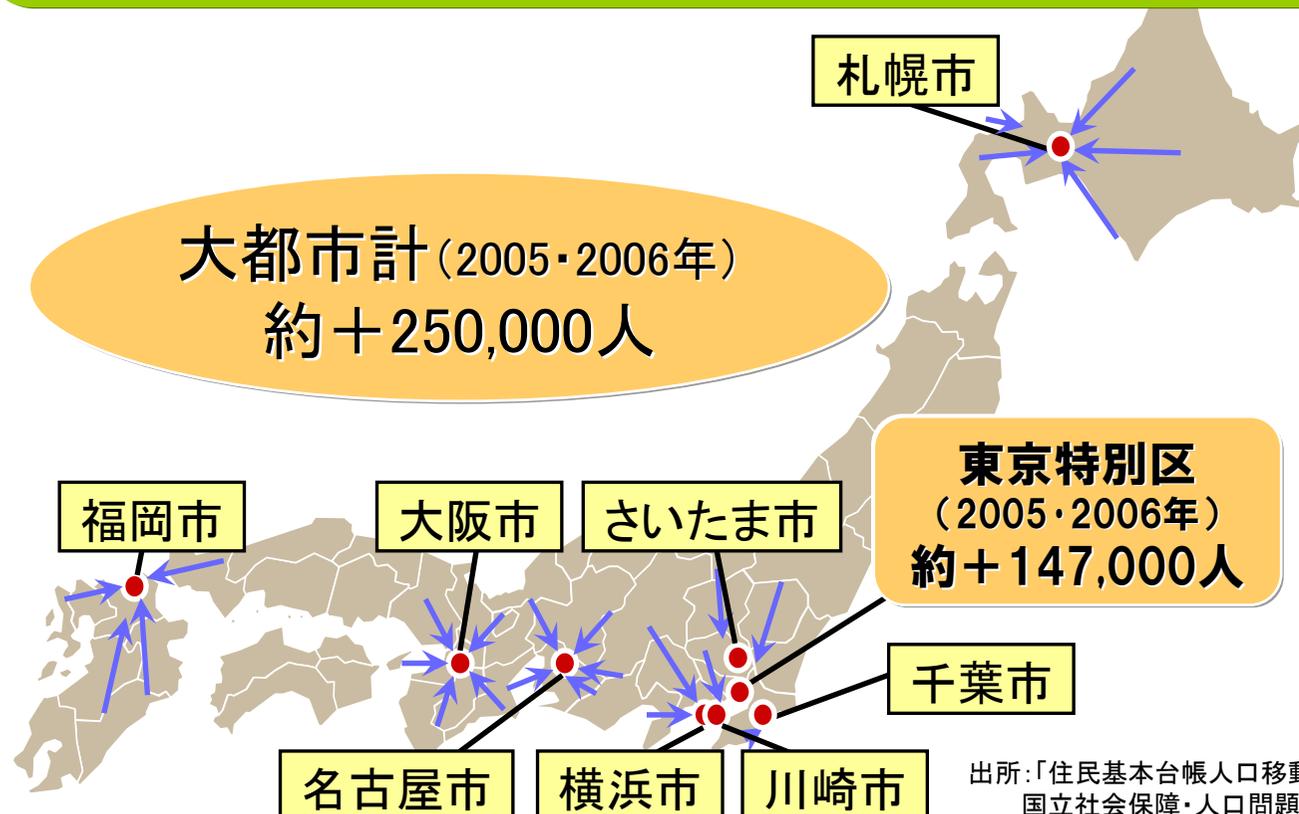
拡大する「都市マーケット」

加速する「大都市への人口流入」と、増加する「世帯数」

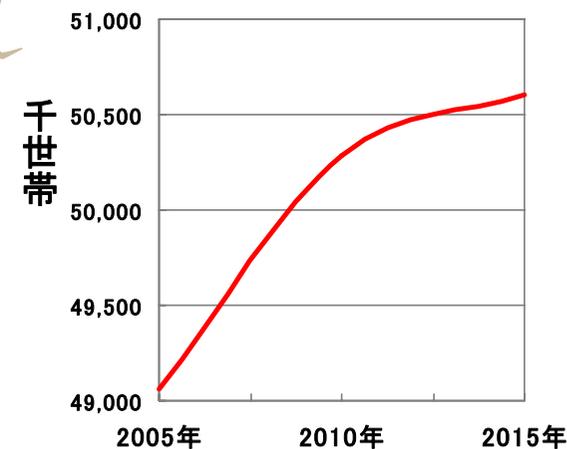
大都市への人口流入
・大都市での需要発生

世帯数の増加(2015年迄)
・耐久消費財の需要発生

都市部の人口増 = 世帯数増 ⇒ 都市市場の拡大



世帯数の推移予測



出所:「住民基本台帳人口移動報告」、
国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計」より

JRの駅に直結した好立地に出店

浜松駅店(仮称)



2008年秋
JR浜松駅にオープン
面積 約4,500㎡(予定)

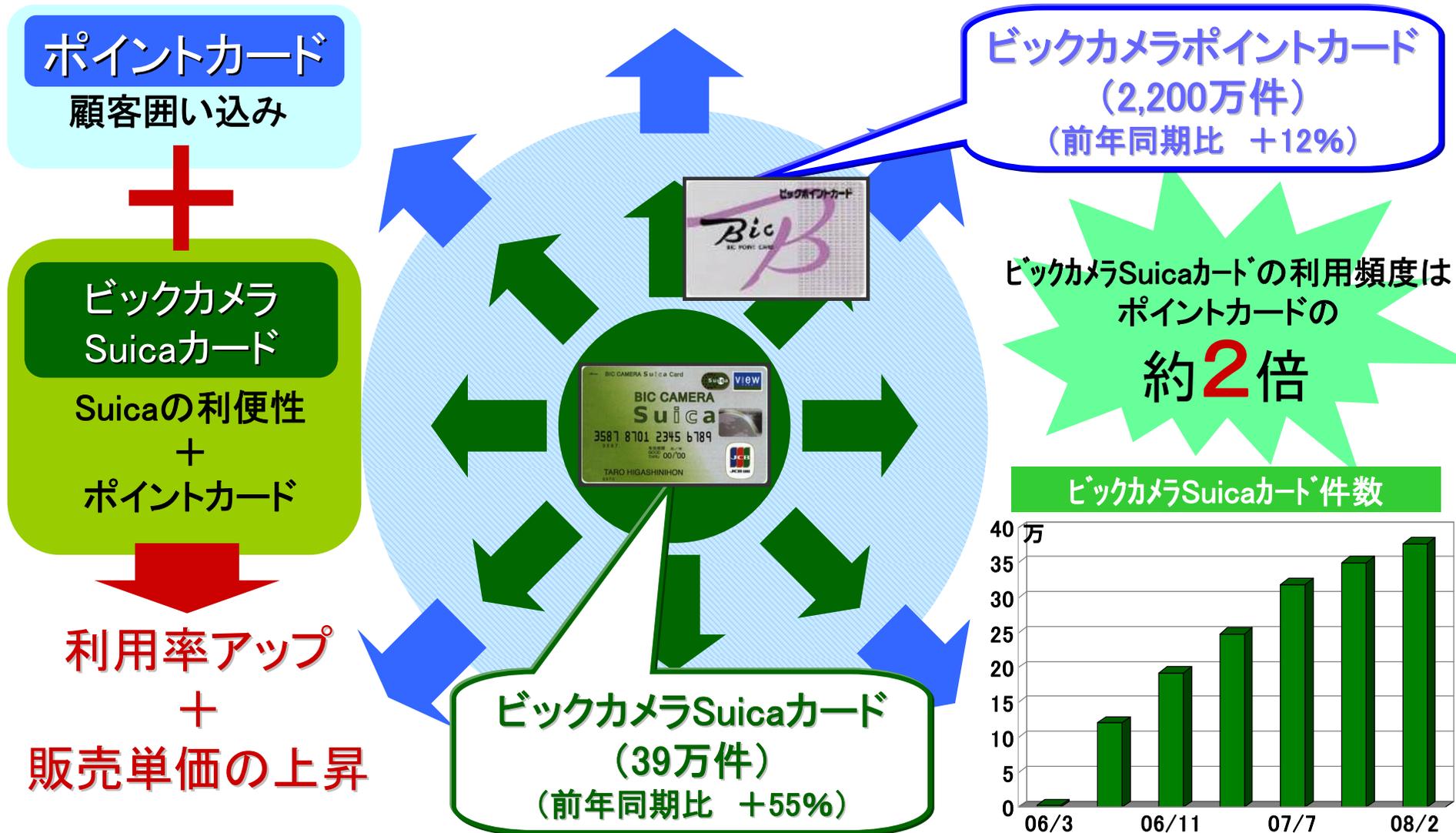
新潟駅ビル店(仮称)



2009年2月
JR新潟駅ビルにオープン
面積 約10,600㎡(予定)

ポイントカード + ビックカメラSuicaカード

ポイントカード+ビックカメラSuicaカードでの囲い込み



利用率アップ

+
販売単価の上昇

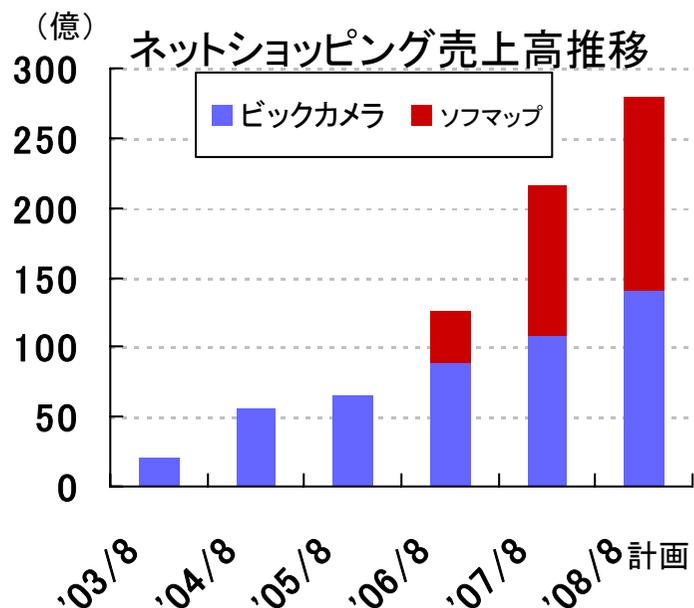
ネットショッピング・TVショッピング = マーケットの拡大

ネットショッピング (ビックカメラ.com)

- 深夜に需要
(21:00~10:00の売上構成比が約50%)
- 利用者は全国各地に広がる

テレビショッピング

- 昨年12月より本格スタートしたBS11を中心に展開



環境先進企業 第1号(環境省)

業界のトップランナーとして

1業種1社のみとする環境省の「エコ・ファースト制度」の第1号認定企業として、社会的責任を踏まえ、環境配慮を通じ積極的に社会貢献します。



エコ・ファースト・マーク

「エコ・ファーストの約束」

1. 家電リサイクルを適正かつ積極的に推進
2. 循環型社会の形成に向けた取組を積極的に推進
3. 地球温暖化の防止に向けた取組を積極的に推進



本資料は、当社の事業及び業界動向について当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさが伴っています。既に知られた、もしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2008年4月18日現在において利用可能な情報に基づいて、当社により2008年4月18日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

2008年4月 株式会社ビックカメラ